

～新渡戸記念の～

『言葉の院外処方箋』

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第29回『正常細胞の社会学 ～ 使命を自覚して 任務を確実に果たす ～』

本来、京都、大阪で、講演の予定であったが、コロナで中止となり、その代わりに、Zoom講演『がん哲学外メデイカルカフェ』（Svenson 本社、東京に於いて）機会が与えられた（画像）。京都大学の外科の教授であった山岡義生先生（京都大学 名誉教授）も参加して頂き、久しぶりに拝顔出来、大変嬉しかった。長島愛生園で、お逢いした立命館大学の田中真美先生も出席されており、長島愛生園に精神科医として勤めていた、神谷美恵子（1914－1979）の『同じ条件の中にも、あるひとは生きがいを感じられなくて悩み、あるひとは生きるよろこびにあふれている。このちがいはどこから来るのであろうか』の言葉を語った。また、神戸薬科大学の横山郁子先生も参加しておられ、神戸海軍操練所を開設した勝海舟（1823－1899）の奥さん（たみ）の、母を亡くして悩んでいるクララに対しての言葉『悲しい時には 私達の所へいらっしゃい、一緒に泣きましょう、そしてあなたが 仕合せな時には一緒に笑いましょう。さあ勇気をお出しなさい、— これから先の長い年月のことは考えず、今日という日以外には 日がないと思って ただ毎日をお過ごしなさい』が、「訪れる人を 温かく迎い入れる」原点であろうと語った。本当に有意義な時であった。

社会をよく見て、「がん」から学んだものを生かす = 社会性（ソシアリテイ）
（新渡戸稲造の精神）

- 1) 癌も身の内 = 癌の個性
- 2) 正常細胞（使命を自覚して 任務を確実に果たす）の社会学（「自己制御と犠牲」の上に成り立つ）
- 3) 真の目標を見失った細胞集団 = 癌細胞 = エゴイスト集団

「時代を超えて、時代を愛する = がん哲学 & がん哲学外来」の原点である。
『21世紀の医療のとびらを開く』となろう。

樋野先生
Zoom 講演

がん哲学外来 メディカルカフェ

●がん哲学外来とは…

がんと告知されてから、あなたが考える「悩み・不安・思い・願望」などを直にきいて「解消できる道」を一緒に探し「医療の隙間」を埋める活動です。がんを患うご本人だけでなく、支えられている家族の方々、ご遺族、医療従事者、市民などお互いの立場を越えて、共に寄り添い自由に語り合います。お気軽にお立ち寄りください。

定員
28名
お申し込み順

初めてのZoom開催です。
ご自宅で、お好みの
お茶をいただきながら
のんびり語り合いませんか？



ひの おきお
樋野 興夫 先生

新渡戸稲造記念センター長、順天堂大学 名誉教授
順天堂大学 医学部 病理・腫瘍学 客員教授
一般社団法人がん哲学外来理事長

開催日

2020年11月1日(日)

15:00～17:00 (Zoomの接続確認会14:00～)

14:00

Zoomの接続確認会

15:00

開 会

講演

順天堂大学名誉教授

樋野先生のお話

質疑応答

グループトークング

共有のひととき

閉 会

Zoom とは？

いつでも、どこでも、スマートフォンやパソコンからWeb会議を実現するアプリケーションのことです。複数人でのオンラインビデオ通話が可能で、画面越しに会話することができます。残念ながらガラケー（ガラパゴス携帯）はZoom機能に対応していませんので、ご参加いただけません。

初めての方でも招待メールのリンクをクリックしていただくだけで簡単にご参加できます。

画面を通して会話できますので、好きなお茶やお菓子をご用意してお待ちください。

後援：一般社団法人がん哲学外来